

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2901103099		
法人名	医療法人 田北クリニック		
事業所名	グループホーム あみ		
所在地	奈良市二条町2丁目3-18		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近鉄西大寺駅より徒歩8分、平城宮跡に隣接という立地条件に恵まれ、毎朝の散歩コースになっています。オーナーが地球環境に関心深く、未来の為のエコロジーハウス(太陽光発電・太陽光温水器)です。又、食材にもこだわり、入居者様の身体に優しいオーガニックな食材を用いた家庭的なお料理を提供しています。施設の名前になっている「あみ」というのは、「わたし」でもあり「あなた」でもあり、「みんな」つながっている」という意味でみんなが楽しく暮らせる愛あふれたホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、近鉄西大寺駅に程近く、世界遺産に登録されている平城宮跡が目に見える場所にある場所に新設・開所されています。ホームの周りに植栽がなされ落ち着いた環境が創造されています。また、ホーム内は、清掃も行き届き、清潔で採光にも工夫し明るい生活の場所が確保されています。入居者も趣味や特技を活かしながら穏やかに過ごされています。なお、看護師の配置がなされ、医療・健康面へ十分な配慮がなされています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年1月22日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔、笑声、笑心を理念として玄関前に掲げておき、管理者と職員は意識的に共有し実践している。	人格の尊重と入居者本位を基本とする方針が樹立されており、業務会議で実践へ繋ぐ話し合いが持たれています。また、優しい表現で方針の掲出がなされています。	地域密着型サービスに位置づけされた意義を踏まえ、地域との関わりを重視した理念を方針の中に明確にされる事が望まれます。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と共に散歩する時や、職員の出勤・退勤の際は挨拶や声掛けの励行。又、自治会の掃除やお月見会にも参加している。	ホームも地域社会の一員と認識され、自治会への加入とともに、地域の清掃活動・資源のリサイクル活動等への参加による交流に努められています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での清掃活動に積極的に参加している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2月曜日の13:30～開催している。家族の意向や意見を取り入れ少しでも満足して頂けるよう取り組んでいる。又、地域包括支援センターの参加も頂いている。	運営推進会議は定期的開催され、入居者の状況や事業報告等がなされている他、運営に関わる事項について意見交換され、聴取した意見等をサービスに活かす機会とされています。	会議への参加者や議題等に偏りが見られます。議題の設定等に工夫され、会議が機能するよう努められる事を期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	奈良市主催の研修会にも参加し、介護総務課の方や介護福祉課の方に相談に乗って頂き、常にアドバイスを受けている。	運営の現状報告や諸課題解決の相談等に行政を訪問し、協力関係の構築に努められています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議に於いて話し合い、細心の注意を払いケアに取り組んでいる。又、安全ベルト使用が必要な方には、必ず家族の了解を得て記録に残している。	身体拘束の弊害を全員が正しく理解し実践で活かされています。なお、身体拘束をやむなく行う時は、期間・時間帯を示し家族の同意を得られています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きてないか常に入居者の身体チェック、スタッフの行動や言動にも細心の注意を払っている。又、フロアに会議でも話し合いをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するセミナーにも参加し、入居者に成年後見制度を利用されている方もおられます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の契約を2時間程かけてきちんと説明し納得して頂きその上で印鑑を押してもらっている。退去時は家族に納得して頂き、又、次の施設や入居先の確保も行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が運営推進会議や面会に来られた際は、意見や要望を伺い、対応するようにしている。現在、スタッフや入居者の写真提示やホーム便りを作成中である。	家族の訪問時等に職員から積極的に話し掛け、不安に感じている事や意見・要望等を聞きだす取り組みがなされ、聴取した意見等は記録・検証し運営に反映させる取り組みがなされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、フロアミーティングを行い、代表者や管理者も参加し、スタッフとの意見交換を行って貰う。	定期的に会議を開催し、課題の提起や問題点の把握と解決策等について意見交換がなされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回、第2月曜日の15:00～より、コアミーティングで意思疎通に努めている。職員に対してもバリデーションを心がけている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、パートにかかわらず、各種研修に参加、スキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム交流会や、相互施設訪問を行っており、ネットワークを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の機会を作り、スタッフを交えて会話や本人の話を聞き、又、家族様の情報も元にし、想いを受け止めるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今、一番何に困っているか何が不安なのかを、本人、家族との面談にて状態を把握出来るよう、じっくり話を聞き想いを受け止めるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際は、ゆっくりと話を聴き困っておられることについて出来る限りの援助やアドバイスを行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から趣味や得意なことを聞き、編み物や料理などを教わったりしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの希望を聞いたり、施設での状況を話して安心してもらえるようにしている。又、本人が家族だけに話されたことも聞き、想いを受け止めるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、住んでおられた家の近所の友人、昔からの友人や親戚の方の面会など、積極的に受けとれるようにしている。	友人・知人等に面会への働き掛けがなされていますが、希薄感が見られます。	家族の協力も得ながら、馴染みの場所へ出掛ける機会等の確保に工夫され、地域社会との関わりの継続・維持が図れる支援に努められる事を期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や特徴を理解し、トラブルにならないよう配慮している。又、レクリエーション等でコミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のその後の状況を談話で確認したり、相談に乗っていることもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活介護の中で本人の希望や不安を聞くようにしている。又、行動や言動にも注意し、少しでもその人の意向に近づくよう努めている。	入居者の暮らしの中での言動から、一人ひとりの思いや意向を詳細に把握・記録されています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に家族から聴き得た情報や、サービス利用の際の今までの問題点など、出来るだけ把握するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護の中で常に状態を把握し、本人が穏やかに生活出来るよう配慮している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロア、4月よりカンファレンスを月2回出来るだけ開催している。その際の問題点などを聞きだし、ケア計画を作成している。又、面会時の家族からの情報も受け止めている。	介護計画は、入居者主体の暮らしを反映したものとするため、関係者が定期的に意見交換し、現状に即したものとなるよう努められています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、その月の体調、出来事、全てを記録している。又、朝夕の申し送りを確実にし、伝達している。計画書の見直しの際に参考にしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性が無いので支援は出来てない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全て、ボランティアの協力にて、絵手紙、ヨガ、ツボ体操、書道教室を開いており、興味のある物に参加して頂き暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が、クリニックの院長(医師)であり、毎週火曜日に訪問診療に来て頂いて、入居者の健康管理をしてもらっている。	契約時に「かかりつけ医」について話し合わせ、家族等の意向が尊重されています。なお、定期的に訪問診療があり、適切な医療確保が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、看護師か準看護師を配置しており、相談、協力、連携を取りながら入居者の健康管理を行い、異常があれば速やかに医師に相談、報告、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を2ヶ所の病院と提携しており、入居者の受け入れをもらっている。又、入院後は病状の把握とリハビリ状態などを見学し、退院後の生活がスムーズに行くよう配慮している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の入居者には、家族に連絡し、特別養護老人ホームなど終末期を受けてもらえるところを申し込むよう依頼している。医師と相談しながら、状態が悪化すれば入院治療し、良くなれば退院という形で出来るだけ施設での介護を継続しているようにしている。	管理者は、家族等が終末期への関心の高い事を良く理解され、契約時にその対応方針を口頭で説明し了解を得られています。なお、看取りの実績も数例あります。	終末期を迎えた入居者へは、適宜関係者が相談し適切に対応されていますが、関係者への一層の浸透・共有化のために、方針の文言化を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会を行ったり、ミーティングの時に説明したりしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の割合で、避難訓練を行っている。又、自治会の方とも気軽に話しかけをし、コミュニケーションをとっている。	定期的に消防署の指導の下に避難・消火訓練が実施されています。また、緊急時の連絡体制の整備が整っています。	火災時には、入居者を迅速・安全に屋外へ誘導することが求められます。その為には周辺住民の協力は不可欠でありますので、応援・協力体制の整備に努められる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフが、その人の人格を尊重し、丁寧な言葉使いを心がけている。又、記録にも事実を冷静に客観的に記録するようにしている。	運営理念の柱の一つ「人格の尊重」を遵守し、一人ひとりに合わせて、優しく丁寧な話し方で対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の発言や行動は見逃がすことのないよう観察し、記録。一人一人に合った声掛け、話しかけをするようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定を説明し、それ以外に入居者の希望に添えるよう話しかけ、出来る範囲内で支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入浴後の衣服選びを本人の理解出来る範囲で行っている。理美容に関しては、理容師の出張を手配している。家族と希望の店に行く方もある。又、毎月の誕生日の方を対象にメイクセラピーを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝の献立を説明し、手伝いの出来る入居者には一緒に食事作りをしている。食後の片付けも手伝って頂いている。但し、出来ない人には、話し掛けをしながら食事の楽しみを味わうよう配慮している。	食に対する関心と意欲を喚起するために、調理場はオープン化されており、能力に合わせて食事の準備や後片付けに協働されています。また、嚥下力に応じた調理への配慮がなされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配置しており、一日のカロリーや摂取量は管理されており、又、水分量等はその都度記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。又、義歯を使用している方の口腔ケアにも細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。又、個々の排泄習慣を把握し、その人に合った時間帯で誘導している。	一人ひとりの排泄習慣の把握・記録と行動観察の徹底により、自立排泄の支援に努められています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症の方にとっての便秘が及ぼす影響についてスタッフも充分理解し、毎日の散歩や腹部マッサージをしている。又、水分補給と、食べ物の調整を管理栄養士と共に考え提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は一応決めているが、失禁や汚染など随時入浴していただいている。	入浴日や入浴時間帯の設定がなされていますが、本人の希望を優先した支援が図られています。なお、毎日の入浴支援体制は整えておられます。	現在は、夜間の入浴希望者がおられない事から、支援体制がありませんが、今後の課題として検討されることを期待します。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後より、30分から1時間程度個々にあわせた時間に午睡して頂いているが、状況に応じて午睡中に居室にて休息して頂くこともあり、安眠出来るよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、投薬の責任者を決めて投薬している。用法や用量についても職員の間で確認を心がけ安全確保している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居の際、個人の生活歴を傾聴し、個々の特徴を把握することで、趣味や特徴を生かせるよう又、張り合いを感じて頂けるよう配慮している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	交代で全員が歩行介助や車椅子等を使って、毎日30分～1時間程度散歩に行っている。個々の体力や体調、又は希望に添って散歩の距離も配慮している。	外気に触れることの有効性を良く理解され、近くにある平城京跡を中心に、散歩を日常化されています。また、大型商業施設があり、買い物等による外出支援にも取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとって金銭の管理はとても難しく、無くしたり、盗られたという事態が生じる可能性が大きいので、家族の了解を得て、本人の金銭管理は行っていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は、支援している。しかし、認知症の方で本人からの希望は少ない。家族へは、電話や手紙等で近況報告は行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の入り具合に合わせてブラインド使用、窓の開閉などに配慮、又、毎日の清掃や床の水こぼれが無いよう確認。入居者と共に各フロアを季節を感じられるような飾り付けをしている。	明るく広い共用空間は、清掃が行き届き清潔感があり、採光や室温に配慮され穏やかに過ごせる場所となっています。また、入居者等の季節に合わせた作品の掲出による、生活環境への工夫もなされています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、くつろいで頂いている。又、他の階へスタッフと一緒に出向いて気の合った利用者同士で過ごして頂くこともある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、ベット、鏡台、テーブルなど、本人が以前から使用していた物を居室に置き、家族の写真を貼るなど普段の自宅での生活と変わらないよう配慮している。	一人ひとりの使い慣れた調度品や好みの写真等が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。なお、居室は、本人の好みに合わせて洋式・和式を選択し使用されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	失禁や混乱が見られたら、スタッフがさりげなく側に行き、他の入居者の目に触れないよう配慮し、介護に当たっている。		